

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970100636		
法人名	有限会社 ファクトリー		
事業所名	グループホーム 朋楽		
所在地	高知県高知市はりまや町3丁目16-8		
自己評価作成日	平成30年12月19日	評価結果 市町村受理日	平成31年3月22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ひとりのために、みんなのために、これがわたしたちの合い言葉」という理念のもとに、利用者一人ひとりの今までの暮らしや、これまでの生活の歴史を大切にし、当たり前前の生活を当たり前として過ごせる環境づくりを、地域の方々や家族の皆さんと共に支えながら取り組んで行くことを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970100636-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970100636-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成31年2月15日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR高知駅に近く、川沿いのホテルや商店などが多く民家の少ない市街地に位置している。  
利用者も参加し、事業所を会場に行われるいきいき百歳体操は地域の高齢者の間でも定着し、継続されている。週3回、いきいき百歳体操とカミカミ体操を同時に実施し、歌や名字当てクイズ等のレクリエーションを併せて行い、楽しんでいる。ラジオ体操もほぼ毎日行い、筋力低下の防止に役立っている。いきいき百歳体操のない日は、利用者一人ひとりの好みに合わせて塗り絵や切り絵をして、作品は居室に貼っている。  
協力医師や歯科医、看護師の定期的な往診があり、利用者と家族の安心につながっている。  
職員のスキルアップに尽力しており、職員会で定期的に勉強会をする等、管理者やケアマネージャーが中心になってケアの資質向上を目指している。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりのために、みんなのために、これがわたしたちの合い言葉」という理念のもとに、利用者のこれまでの生活歴をふまえたその人らしい当たり前の暮らしの支援を目指して、日々努めている。	事業所の利用者、家族や来所者の目に止まる玄関や共同フロア等に理念を掲示し、内部職員研修、新任研修では理念の意識づけに取り組んでいる。職員は、日々、ケアを振り返り理念の実践に努めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の高齢化や認知症の進行に伴い地域との交流は日常的には難しくはなっているが、いきいき百歳体操や敬老会に地域住民の参加があり、近所の神社の夏祭りに合わせた事業所の夏祭りでも交流を図っている。	地域の高齢者と事業所の利用者が一緒に、いきいき百歳体操を楽しんでいる。近所の神社の夏祭りに合わせて事業所の夏祭りを開催し、出店を出して地域と交流している。近隣とは、お裾分けをし合う関係がある。	近隣に民家が少なく、地域との付き合いが希薄だが、災害時には地域の繋がりは重要であり、町内会総会への参加や近隣の商店等に働きかけを行い、地域との付き合いを広げることを期待する。
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせや施設見学の機会に、事業所の説明や空き状況だけでなく、全般的な介護の相談に乗るようにしている。すぐに入所できない場合が多いが、相談にはいつでも応じることを伝えている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所運営、利用者の状況、活動報告等を行いながら意見や情報を得て、改善に努めている。今年度から高知市介護保険課事業系の職員にも参加してもらっており、行政からのアドバイスが期待できる。	市介護保険課と地域包括支援センター職員、家族、民生委員、近隣住民の参加で開催されている。介護職員の確保、職員の育成等、運営課題も協議され、会議録は、協議経過が分かりやすくまとめられている。会議録は事業所便りと一緒に家族に郵送している。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市には必要に応じて電話や出向いて相談し、アドバイスを受けている。運営推進会議に東部高齢者支援センターや介護保険課事業系の職員が参加しているので、情報を得るようにしている。	市グループホーム連絡協議会が2ヶ月に1回、行政も加わって地域包括支援センターで開催され、参加している。日ごろから行政と事業所が話し合う関係にあり、分からないことは直接出向いて相談している。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、定期的で開催し、職員全員が勉強会やケア会議で学習している。それにより身体拘束をしないケアの認識が統一化されている。	母体法人の身体拘束廃止委員会と並行して、事業所の身体拘束廃止委員会を開催している。職員会で拘束廃止について話し合っている。居室では、家族と話し合いのうえ、センサーやベッド柵を付けている利用者もいる。昼間は施錠せず、1階のエレベーターと玄関の鍵は午後8時に施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が基礎的研修で高齢者虐待防止関連法について学習しており、日々のケアでも高い知識を持って取り組んでいる。定期的に勉強会を開き、虐待防止を徹底している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中にはすでに成年後見制度を利用している利用者もおり、必要な利用者には活用できるよう支援している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に従って十分な説明を行っている。そのうえで、個々のケースに沿って、家族の不安や疑問にも適切に対応できるようにしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対しては、日頃の言動を通して個々の思いを察したうえで対応している。家族の来所時にも話しやすい雰囲気作りに努めている。	事業所の夏祭りと同時に年1回家族会を開催し、家族だけで話し合う時間を設けている。玄関に意見箱を置き、無記名方式の家族アンケートも実施して意見を聞いているが、利用者個々のケア実施上の要望等があり、その都度対応している。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から職員の要望や意見をよく聞き、何でも話せる関係づくりを心掛けている。出された意見、要望は職員会やリーダー会で報告し、母体法人全体として検討、改善ができるように努めている。	職員からは冷蔵庫更新等の備品購入の希望があり、対応されている。職員は、管理者と気軽に相談できる関係にあり、管理者は母体法人のリーダー会に出席し、職員意見を伝えている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ベテラン職員の高齢化に伴い、常勤から非常勤への移行希望者が多くあり、承諾したうえで、新人職員を採用して働きやすい環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員も一人前になってきており、引き続き内部研修や外部研修に参加し自己研鑽が行えるように見守っている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市のグループホーム連絡会に参加して、同業者と交流し、職員にも情報伝達するようになっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を通してこれまでの生活歴や本人の思い等を把握するように努め、入所後も本人、家族から情報を得て、安心して生活を送ることができるようにしている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限り本人、家族とコミュニケーションを取り、不安に思うことや困っていることなどを聞き出し、家族の思いを把握して、安心につながるように留意している。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身状態や生活状況、家族の思いを把握し、必要としている支援を見極めるように努めている。必要に応じて地域包括支援センターや他の介護サービス事業所とも連携し、より適切なサービスを提供できるように努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で家事、調理などを一緒に行っている。時には調理方法や味付け等を教えてもらうこともある。日ごろの会話の中で昔の暮らしや生活の知恵を教えてもらいながら、利用者と共に学び、支え合う関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の現状に配慮しながら、できるだけ来訪してもらう機会の確保や、来訪しやすい環境づくりに取り組み、利用者の日々の暮らしや身体状況を報告、相談して、信頼関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や以前の住まいの近所の人々の来訪時には、歓談しやすい雰囲気づくりを心掛け、時には職員も会話に加わり、また、再度の来訪をさりげなく依頼して、関係性の継続に努めている。	2ヶ月に一度家族と馴染みの美容院に出かけたり、友人、知人の来訪が続いている利用者もある。友人、知人の来訪では職員も歓待し、利用者と一緒にできる雰囲気づくりに努める等、馴染みの人や場との関係支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者相互の相性なども配慮して、関係の把握に努めている。配席の変更などしながら、孤立することがないように快適な共同生活を送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに退所した利用者の家族の中には、引き続き運営推進会議の委員として参加してくれる人もいる。退所後も、事業所としてできる範囲で相談に乗り、情報提供をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの言動を観察しつつ、思いや意向を把握して、要望に応じていくように努めている。職員間で情報共有し、変化があれば話し合うようにしている。	個々の担当職員が、利用者の言葉や声の様子、動作等の変化を申し送り時に報告し、連絡帳、日誌に記入して、職員間で共有している。不穏の症状が疑われる場合には、診療内科医の往診時に指導を受け、利用者寄り添うケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員を中心に利用者の生活歴や環境、家族とのつながりなどを把握して、希望に沿ったサービスを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の毎日の心身の状態を観察し、その日の状態に合った過ごし方を支援するようにしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の希望や意向を聞き、それに基づいた介護計画を立てるようにしている。家族が遠方でめったに来られない場合には、電話で本人の状況を報告し、家族の意向を聞くようにしている。	各利用者の担当職員とその日に参加できる職員でカンファレンスを行い、本人、家族の意向も踏まえて、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。入退院等、本人に状況変化があれば、その都度見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施表に毎日のケア状況を記入している。個人のケース記録に日々の様子を記録し、特記事項があった場合には介護日誌や連絡帳にも記載して、情報共有するようにしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し、家族の事情を踏まえたうえで、日用品や介護用品の購入や受診同行等、対応ができない家族の代わりに職員が代行支援している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や神社などに散歩に行ったり、地域の商店に買い物に行ったりしている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医と心療内科医から月に2回ずつ往診を受けている。利用者の心身の状態を把握してもらい、服薬の調整やケアにおける注意点の指導を得ている。利用者に変化があったときはすぐ連絡し、その都度対応してもらえ、救急搬送先の病院の紹介もしてもらっている。	入所時に利用者、家族の同意を得て、協力医の往診を受けている。協力医以外の専門医への受診時は家族が付き添いが、家族の都合の悪い場合は管理者が付き添い、受診結果は連絡帳で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当職員を中心に常に利用者の様子を把握して、全職員が共有できるようにしている。体調に変化があったときは、訪問看護師や往診医に報告して、指示を仰ぐようにしている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院の際には、家族と密に連絡を取り合い、管理者とケアマネージャーが病院の相談員や看護師と情報交換を行っている。スムーズな受け入れをするために、退院前には看護師等から情報を得るようにしている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が3以上になると、家族の意向を聞きながら特別養護老ホームへの申し込み準備を提案している。事業所で終末期を迎える利用者については、家族や医師と連絡を密にして、状況を報告しながら意向に沿うようにしている。	入所時と介護度3となった際に、看取り介護の意向確認をしている。これまでに1件の看取り実績がある。全職員が研修を受け、協力医師と家族と連携して対応した。看護師を中心にした体制の整備に努めている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成して、職員が対処できるようにしている。勉強会や職員会で対応策や応急手当の方法を学習するようにしている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所での職員体制では、特に夜間は充分とはいえないが、万一の際は緊急連絡網を活用し、できる限りの体制づくりに努めている。	避難訓練は年2回実施し、うち1回は消防署の指導を受けている。火災時の避難場所は3階だが、階段での移動が難しい。夜間と地震災害を想定した訓練は検討中である。訓練時の住民参加が得られておらず、職員は緊急連絡網で対応している。3日以上分の備蓄の補充ができていない。	災害対策では、地域との連携や協力が不可欠であり、消防署の指導も受けて対策に取り組むことを期待する。併せて、非常用食料の備蓄は賞味期限を明記して、補充していくことを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から利用者の心に届くような声掛けを心掛け、指示的、威圧的にならないよう、利用者の尊厳を守る支援を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの個性を尊重し、職員会で人権の尊厳やプライバシー保護を学んで、ケアに活かしている。職員間で話し合うときは、利用者はイニシャルの呼称を用いるほか、トイレ誘導の声掛けにも留意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で起こる様々なことで、本人が選択や決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの意向や、体調に合わせた個別性を尊重する支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際には服を選んでもらい、日々の生活の中で本人の嗜好を把握し、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、盛り付け、配膳等、個々にできることを職員と一緒にしながら、ゆっくりと楽しく食事ができるように心掛けている。	食事の盛り付け、野菜刻み、下膳等、利用者ができることは職員と一緒にしている。好き嫌いのある利用者には、特別のメニューにしている。利用者の咀嚼の段階に応じて、きざみ食、ミキサー食にしたり、肉類と魚類の食材を変えたりする工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は毎日チェックし、必要量の確保につなげている。また、本人の状況に応じた食形態や食事の内容、食器、配膳の位置の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔、義歯の清潔が保たれるよう、毎食後利用者の能力に応じた支援に努めている。夜間は義歯を洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助の必要な利用者については、本人の能力や排泄リズムを把握し、尊厳を損なわない支援に努めている。	利用者一人ひとりに合わせた排泄誘導で自立に向けたケアを実施し、3名の利用者は自立をしている。夜間はポータブルトイレやオムツを使用する利用者もいるが、入所時はオムツを使用していた利用者が、事業所の支援で失敗が減り、布パンツになった事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無、状態について可能な限り把握し、水分や食事内容、運動量を少しでも増やす工夫をすることで、便秘の改善、予防につながる支援に努めている。医師と相談しながら緩下剤を服用している利用者もいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を尊重し、入浴する意欲が起こるような声掛けで、気持ちよく入浴ができる支援をしている。	月曜日から土曜日まで入浴できるが、毎日入浴をする利用者はいない。平均して週に2日の入浴となっている。入浴しない日も、毎日全員が下着を交換し、清潔維持を心掛けている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を確保するため、日中はできるだけ活動的に過ごしてもらうことを基本としている。個々の体調や体力に合わせて、夜間睡眠に支障のない程度に休息や午睡もしている。夕食後の余暇にも配慮している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、個々の用法用量、副作用を把握し、投薬介助が必要な利用者に対しては、薬剤師と相談のうえ、ゼリーに混ぜて服用してもらうなどの工夫をしてくる。利用者全員、確実に服用できているか確認している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味、嗜好に応じたレクリエーションを提供し、個々に対応したり役割分担をしたり、集団で楽しめるように工夫している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の高齢化と認知症の進行に伴い、以前のように頻繁な外出支援はできていない。歳時記の花見見物などでは、全員が行けるよう何度かに分けて実施している。	四季折々にあじさいやコスモスの花見のドライブに出かけるほか、よさこい祭りや近くの神社の夏祭りには、家族や職員と出かけている。事業所自身、日常的な散歩が充分でないと認識している。	行事や家族の支援で買い物や美容院へ行く利用者はいるが、日常的な外出が少ない。散歩道に適した神社が近くにあり、天候の良い日には、職員の配置を工夫して、散歩をするなどの取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かって事業所で管理しており、買い物に出た際には、支払いを支援している。個人的に所持している利用者はいない。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は本人に取り次ぎ、本人が電話を掛けたいという希望があれば、早朝や深夜を除き、まず職員が掛けて、了解を得たうえで本人に代わるようにしている。自分で読み書きができない利用差には、手紙の代読や代筆をしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	栄養者全員の居心地の良い環境づくりを目指し、季節感を感じられる飾りつけや、季節の花を活けている。	共同のフロアでは、雛飾りや梅の花の壁画が季節感を出している。聞き馴れた音楽が流れ、落ち着いた生活空間になっている。利用者が分かりやすいよう、トイレや居室の表示を工夫をしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子やソファを配置し、利用者一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるようにしている。居室で休めるような支援も行っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に、馴染みのある家具を置き、写真や絵画なども自由に貼ってもらっている。ベッドが苦手な利用者には、畳に布団を敷いてもらっている。各々自由な空間づくりになっている。	使い慣れた筆筒、衣装ケースやベッドの持ち込みを依頼している。畳を持ち込んでいる利用者もいる。家族の写真や自分の塗り絵の作品を飾ったりと、和やかな雰囲気のある居室になっている。午後には職員が全居室を見回り、換気や清掃をしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止を意識し、手すりやポータブルトイレなど、個々の身体状態に応じた環境を整え、抑制のない自立した生活を送ることができるよう配慮している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				